

天下繚乱シナリオ

きょうらくむげん

「京洛夢幻」

文：小太刀右京

画：すがのたすく



注意!

ここから先にはシナリオが掲載されています。GMのみが読むようにしてください。また、インターネット上などでのシナリオのネタバレにあたる書き込みはご遠慮ください。

シナリオの中身を知っていても楽しく遊ぶというプレイスタイルもありますが、そうでない人もいます。どうかご配慮いただければ幸いです。

シナリオ「京洛夢幻」

「刻は巡りまた舞い戻る。
そのことの意味が理解される日は、
いつか」

——伏姫

プリプレイ

■シナリオ・データ

プレイヤー：3～5人
PCレベル：3～5レベル
プレイ時間：3～5時間

■シナリオ背景

PC①とともに現代日本から化政時代に漂着した乙女、乾美奈穂。彼女こそはかつて運命に導かれ、村雨丸を見だして世界を救った里見八犬士の生みの親とも言うべき、伏姫の転生であった。

伏姫の転生たる美奈穂を生け贄に捧げることで時空破断を完璧なものとし、この世界を完璧な魔界に変えることができると考えた羅刹、河上彦斎は美奈穂を誘拐する。

魔界と化した比叡山に捕らわれた美奈穂を救い出し、河上彦斎らを討伐することでこのシナリオは終了となる。

■今回予告

かつて、閻羅王に立ち向かい、村雨丸を振るってこの世界を救った勇者たちがいた。

彼らの名は里見八犬士。だが、その伝説ははるかな過去に去って久しい。

その伝説の復活を恐れ、憎む者たちがいた。世界の闇に潜む妖異ども。

奴らははるかな未来より訪れた乙女、乾美奈穂をその生け贄として、もはや村雨丸で

すら修復できぬほど、この世界を粉々にしようと企む。

魔都と化した京の都に集結する、怪人、黒天狗、そして幕末最強の人斬り。

燃え上がる京の街に黄龍の力が輝く時、少女は人の奇跡を見る。

天下繚乱『京洛夢幻』
百花繚乱綾錦、いざ開幕！

■キャラクター作成

今回予告を読み上げた後、次ページのハンドアウトをコピーして切り離し、各プレイヤーに配布せよ。どのプレイヤーにハンドアウトを渡すかは、GMの任意にしてもよいし、プレイヤー間で選択させてもよい。プレイヤーの人数が少ない時は、若い番号のものを優先すること。

●ハンドアウト

ハンドアウトには、各PCによって異なる事前情報と、シナリオによってPCに与えられるコネクションが記載されている。

今回予告を読み上げたのち、GMは下のシナリオハンドアウトの内容を読み上げて、各プレイヤーに配ること。その後、ハンドアウトに沿ってPCを作成してもらうとよい。

●クイックスタート

プレイヤーが『天下繚乱』を初めて遊ぶ場合

や、ルールブックを持っていないならクイックスタートでキャラクター作成を行うとよい。

本シナリオでは基本ルールブックおよび『蒼穹無限』（以下、『蒼穹』）に掲載されている以下のサンプルキャラクターを推奨する。

PC①：未来少女（『蒼穹』P70）

PC②：天下のご老公（『天下』P86）

PC③：大天狗の孫（『蒼穹』P80）

PC④：闇を討つ炎（『蒼穹』P76）

PC⑤：壬生の狼（『天下』P66）

●コンストラクション

プレイヤーがルールを知っていて、ルールブックも所持している場合、コンストラクションでキャラクターを作成してもよい。

このとき、各PCにはハンドアウトで推奨されるクラスを取らせ、またハンドアウトに付随する設定についてはGMから説明を行うこと。

●《黄龍顕現》について

セッション中に、PC①の《黄龍顕現》が必

要になる場面が存在する。このことは、プリプレイで必ず説明すること。こうした処理を見せ場が約束されているのではなく、リソースを奪われる、あるいは演出の自由度が減る、と感じるプレイヤーがいるなら、そのプレイヤーにはPC②以降のハンドアウトを推奨するとよいだろう。

●PC①について

PC①はオープニングで化政時代に飛ばされ、それから一ヶ月ほど経過した状態から本編に参加する。プリプレイではこのことを前提に、ライフパスやPC間コネクションを決定させるとよいだろう。

●PC②について

PC②は幕府の要人で、影の軍団や勘解由忍軍（『蒼穹』P20）などの関係者であることを想定している。天下人をクラスとして取得している必要はない。

●PC間コネクション

PC間コネクションの結び方は以下のとおり。

PC①→PC②→PC③→PC④→PC⑤→PC①

シナリオハンドアウト

各PCには以下の設定がつくので、キャラクター作成の時によくプレイヤーと相談すること。

PC①：乾美奈穂の友人である

PC②：幕府の要人である

PC③：黒姫のライバルである

PC④：八葉衆である

PC⑤：新選組である

PC①用ハンドアウト

コネクション：乾美奈穂

関係：友人

クイックスタート：未来少女 コンストラクション：未来人 カバー：指定なし

乾美奈穂とキミは、同じ高校のクラスメートだった。修学旅行で訪れた京都の街で、雷に打たれたその日、キミは不思議な世界に迷い込み、“上様”と名乗る男から、自分に運命を変える力があると告げられた。正直ちんぷんかんぷんだったが、自分が美奈穂を守らなければならないことだけは理解できた。

PC②用ハンドアウト

コネクション：河上彦斎

関係：憎悪

クイックスタート：天下のご老公 コンストラクション：指定なし カバー：指定なし

妖異対策の会議のため、京における幕府の要塞である二条城を訪れたキミだったが、まさにその折、二条城は羅刹・河上彦斎に襲撃されてしまう。河上彦斎は二条城に封印されていた村雨丸探索の要、伏姫（ふせひめ）の数珠を奪って逃走した。今戦えるものはキミを置いてほかにない。キミは天下万民のため、数珠を追い町へ飛び出した。

PC③用ハンドアウト

コネクション：黒姫

関係：仇敵

クイックスタート：大天狗の孫 コンストラクション：天狗 カバー：指定なし

天狗を裏切って閻魔王の下僕、黒天狗となった女、黒姫。ヤツを追っていたキミは、逆に黒姫の奇襲を受け、世話になった宿場を焼かれてしまった。もはや天狗の時代ではない、これからは妖異の時代だ、と笑う黒姫。だがそんなことは問題ではない。古い仁義を通すため、キミはヤツを追いつける。

PC④用ハンドアウト

コネクション：天雷

関係：友人

クイックスタート：闇を討つ炎 コンストラクション：退魔僧 カバー：指定なし

日本全国を放浪し、あらゆる妖異を葬る八葉衆の退魔僧。それがキミだ。急なお役目にて京に呼び出されたキミを待っていたのは、八葉衆最高幹部のひとり、天雷だった。彼女はキミに、妖異たちが京の神社仏閣に一斉攻撃をかけてきたと告げ、キミに討伐任務に加わるよう告げた。

PC⑤用ハンドアウト

コネクション：河上彦斎

関係：好敵手

クイックスタート：壬生の狼 コンストラクション：新選組 カバー：指定なし

かつて京の街で最強と呼ばれた、倒幕派の人斬り、肥後の河上彦斎。その男が、キミたち新選組と同じく、時を超え京の街に現われたという。それも妖異の手先となって。それを知ったキミの為すべき事はひとつ。新選組のため、そして後ろ盾たる上様のため、河上を斬るのみだ。

オープニングフェイズ

オープニングフェイズでは、基本的にシーンプレイヤー以外は登場できないものとする。

●シーン1: 刻を超えて

シーンプレイヤー: PC①

◆解説1

PC①が修学旅行(*)中に、時空破断に巻き込まれるシーン。

▼描写1

高校生活最大のイベントとも言うべき修学旅行。キミとクラス委員の乾美奈穂は、比叡山の展望台から、眼下に広がる京都の街を見下ろしている。

ここから眺めると、京都はまるで蜃気楼のように見える。飲み込まれてしまいそうな、そんな景色だった。

▼セリフ: 乾美奈穂

「うふふ……すごい景色ね、PC①くん」

「千年前から何も変わっていないみたい」

「不思議ね。なんだか、この景色を見ていると

何か懐かしい気がするの。ずっと昔から、あの街を知っていたような」

「ねえ……? PC①くん、誰かが今、私たちのこと呼ばなかった?」

「ううん、確かに……どこからか、私たちを見ている気配を感じるの……これは……誰?」

「——!?! 雷! PC①くん……ッ!」

◆解説2

雷に打たれ、刻を超えたPC①が刻の狭間で“上様”こと徳川家茂と出逢うシーン。

▼描写2

一瞬だったような気もするし、永遠だったような気もする。

暗闇の中、目を覚ますと、そこはどこまでも続く広大な畳敷きの部屋だった。蠟燭の明かりに照らし出されて、ひとりの美しい着物姿の男性が、キミを見つめている。

彼はキミが目覚めたことに気がついてか、笑顔を見せた。

▼セリフ: 上様

「——はじめまして。キミが、PC①殿か」

「私は徳川家茂。第十四代、征夷大將軍。皆は私を“上様”と呼ぶ」

「ああ、かしこまらなくていい。キミの住む時代には、武士も町人もないのだろう?」

「キミと乾美奈穂くんは、数奇な宿星の元に生まれた。その運命がキミをもうひとつの過去へと導く。その時代の名は、化政。キミの知るあらゆる歴史に刻まれていない世」

「キミたちの前には幾多の苦難が襲いかかる。だが決して忘れないでくれ。キミたちがその気高さを忘れなければ、必ず——」(上様の体が消え始める)

「ッ……! もう連中に感づかれたか……。すまない。もっと話をしていたいが、これでお別れようだ。頼む。美奈穂くんを守ってくれ。彼女は“器”、この世界の鍵を担う——!」

◆結末

意識は消え、気がつくとキミと美奈穂は化政時代に投げ出されていた。それから一ヶ月。どうにかこの時代にも慣れてきたそんな頃、物語は動き出す。

PC①に【宿星:美奈穂を守る】を渡してシーンを終了すること。

NPC紹介

いぬい・みなほ ■乾美奈穂

現代日本からPC①とともにタイムスリップしてきた女子高生。英傑の力は持たないが、不思議な治癒能力と、芯の強い気高さを併せ持ち、人々から慕われている。

里見八犬士の霊的な母ともいふべき伏姫(伏姫神)の転生。本人にその自覚はないが、治癒能力などはそのあらわれである。『蒼穹』P62 参照。

かわかみ・げんさい ■河上彦斎

肥後(熊本)浪士。諱は玄明。攘夷思想の持ち主で、倒幕のため京都で暗殺を繰り返していた居合いの達人である。

池田屋事件当時、師匠である宮部鼎蔵を守るため現地にはせ参じ、そこで時空破断に巻き込まれて化政時代によってきた。

妖異の力に魅せられ、日本を守るために他の国々を滅ぼすという思想に

取り憑かれている。

礼儀正しいが、立ちふさがるあらゆる人間をためらわず殺すことができる男。居合いの達人。30 歳。『蒼穹』P59 参照。

■黒姫

魔縁、すなわち天狗同士の禁じられた交わりによって生まれた天狗。それ故に山で迫害を受け、人の世界にもいられず、天狗社会への復讐を誓って黒天狗となった女。

河上彦斎の愛人で、彼に心服している。25 歳。

どくろまる ■獨體丸

忍法修練のために醜い姿になってしまい、それゆえに世を恨み羅刹となった忍者。

紅蓮の炎を体内からはき出す忍法を扱う。



●シーン2：その男、河上彦斎

シーンプレイヤー：PC②

◆解説

二条城(*)が河上彦斎の襲撃を受け、伏姫の数珠を奪われるシーン。伏姫の数珠はかつて里見八犬士を導いた蘭学というマジックアイテムであると説明せよ。

▼描写

それは、突然の出来事だった。勘解由使の本拠地、京都を守護する巨神軍団の基地である二条城に、妖異が攻撃をかけたきたのだ。

よもや、京の妖異対策を行なう幹部たちが集まる時に襲撃とは！ 敵はよほどの手練れに違いない。

「くせ者！ くせ者にござる！」

夜の闇を裂いて、叫び声が起こる。

次々と、二条城の各地から出撃する巨神たち。だが、その駆動音はすぐに聞こえなくなる。おっとり刀で出撃したキミは、炎の中に立つ、ひとりの剣客を目にした。

ひどく美しい、血まみれの太刀を手にした男とも女ともつかぬ妖人。その左手にあるのは、水晶で出来た数珠。二条城が守護し

てきた神器、伏姫の数珠ではないか！

動じる風もなく、剣客の赤い唇に笑みがこぼれる。あきらかに、羅刹の気配。

▼セリフ：河上彦斎

「名乗り遅れた。拙者は肥後浪人、河上彦斎。短い間だが、お見知りおき願おう」「帝を守り奉る勘解由使の巨神とやらもたいしたことはないと思っていたが、お主は違うようござるな」

「伏姫の数珠を狙う理由？ ……知れたこと。この国を誤った方向に導く徳川を倒し、この日本を魔界に変えること。そのためには、村雨丸を導くこの数珠が必要」

「もっと貴様の相手をしてやりたいところござるが、そうもいかぬ。時代の変わる様を、そこでとっくりと待っておるがよい！ さらば！」
《神出鬼没》を使用

◆結末

炎の中、数珠もろともに河上彦斎は消えた。なんとしても奴を追ひ、数珠を奪回せねばならぬ。

PC②に【宿星：伏姫の数珠を奪還する】を渡してシーンを終了すること。

(*) 二条城

京における幕府の軍事拠点である二条城は、天海が率いる対妖異部隊のひとつである勘解由忍軍の本拠地でもある。

描写で登場している「巨神」は勘解由忍軍、すなわち幕府の秘密兵器である全高8メートルほどの巨大な鋼鉄の巨人である。巨神と勘解由忍軍についてはいずれ詳細な解説を行なう日も来るだろう。

●シーン3：黒姫襲来

シーンプレイヤー：PC③

◆解説

PC③が黒姫によって、世話になっていた宿場町を焼かれるシーン。

▼描写

それは一瞬の出来事だった。キミがわらじを脱いでいた平和な宿場町(*)に火が放たれ、一瞬にして街は地獄絵図になった。炎の中から現われた妖異たちが、逃げ惑う人々を殺している。キミは必死に戦ったが、多勢に無勢。

そんなキミを、哄笑とともに見下すひとりの女天狗がいた。誰だろう、キミが追う天狗の裏切り者、黒姫!

▼セリフ：黒姫

「あーっはっはっは! あたしがあんたに追われていただって!? 逆さね! あんたがあたしに誘い込まれたんだよ、PC③!」

「人間なんぞに肩入れをするからこんなことになるのさ! 空も飛べない、神通力も使えない、猿に毛の生えたような人間のさ!」

「あんたのお高くとまった顔に、泥を塗りつけてやりたかったのさ! これから始まる祭りの前にねえ!」(飛び去る)

◆結末

黒姫は京の方角に向かって飛び去っていく。追うより先に、妖異を倒し、火事をなんとかせねばなるまい。

PC⑤に【宿星：黒姫を倒す】を渡してシーンを終了すること。

●シーン4：京都燃ゆ

シーンプレイヤー：PC④

◆解説

PC④と天雷(P56)が、京都の神社仏閣に攻撃をかけてきた妖異に対処するシーン。

▼描写

京、下鴨神社。それを取り巻く聖域、^{しもがもじんじや}糺の森。だが、いつもは静けさに満ちたこの地に、今や妖異どもが^{ただす}ひしめいていた。

キミと天雷は妖異たちをなぎ払い、どうにか一息つくことができた。

▼セリフ：天雷

「このあたりの妖異はあらかじめ片付いたな」

「伝令によれば、妖異どもは主立った神社仏閣に同時攻撃をかけてきたらしい。東寺、^{とうじ}上賀茂神社、^{かみがもじんじや}祇園社、そして二条城。いずれも妖異の襲撃を受けたらしい」

「ご公儀(幕府のこと)の妖異対策を行なっていた方々は、PC②殿以外はほとんど潰滅なさったそうだ」

「私は出現した妖異どもを片っ端からたたきつづ。PC④は、この事件の背後にあるものを突き止めてくれ」

◆結末

【宿星：妖異襲撃の謎を解く】を渡してシーンを終了すること。

●シーン5：京の狼たち

シーンプレイヤー：PC⑤

◆解説1

PC⑤が河上と対決する回想シーン(*)。

▼描写1

幕末。四条河原に近い、ある裏路地。キミと肥後の人斬り、河上彦斎は一進一退の攻防を続けていた。

▼セリフ：河上彦斎

「為政者は腐敗し、民は金に狂っている。これほど腐った日本の、どこの誰から頼まれて、貴殿ら新選組は戦う?」

「いや、愚問でござるな。……拙者もお主も同じ人斬り同士。こうして、刃を交えている時にのみ充足を感じる」

「いつまでもこうして刃で語り合っていたいところとござるが、あいにくまだここで死ぬわけにはゆかぬ!」《神出鬼没》を使用

◆解説2

河上が退場すると、回想は終わり、時間は現在に戻る。PC⑤が^{やまざき・すすむ}山崎 蒸から報告を聞くシーンとなる。

▼描写2

河上彦斎のことを思い出したのは、監察方の山崎蒸が、その名前を出したからだ。

▼セリフ：山崎蒸

「一足遅うなっていました、二条城を襲撃した下手人、肥後の河上彦斎ですわ」

「わてらと同じように、河上も時空破断に巻き込まれて時を超えたんでんな。それも妖異の用心棒や」

「上様」からは、河上は一気に時空破断を進める計画を手に入れたらしい、と聞いたり。PC⑤はんは、河上を追ってもらえまっか。わては背後関係を洗ってみませうかい」

◆結末

PC⑤に【宿星：河上彦斎を倒す】を渡してシーンを終了すること。

ミドルフェイズ

●シーン6: 燕屋の危機

シーンプレイヤー: PC①

登場難易度: 登場不可

◆解説

妖異の攻撃による火災が美奈穂とPC①が世話になっている公事宿、^{くじやど}“燕屋”に迫るシーン。

PC①は燕屋の主である新太郎『蒼穹』P61)から、美奈穂が火事の中へ飛び込んでいったと知らされる。

▼描写

突然、京のあちこちで火の手があがった。火の手は燕屋のすぐ近くで止まった。美奈穂の姿を探すキミのところに、燕屋の主である新太郎が血相を変えてやってきた。

▼セリフ: 新太郎

「ああ、やっぱりここにもいない!」

「美奈穂さんですよ! どうも、火事の中にまだ子供がいるってんで、飛び込んだじまつたらしいんです!」

「も、もしかして助けに行くおつもりですか!? 今からじゃあ、火の手が……」

◆結末

PC①が美奈穂を救うため火事の中に飛び込んだらシーン終了となる。

●シーン7: 炎の対決

シーンプレイヤー: PC②

登場難易度: 8

◆解説

PC②が、炎の中で妖異に襲撃される美奈穂と出逢うシーン。妖異たちは美奈穂を探している部隊のため、美奈穂自身には手を出さない。

PC①は自動登場。

戦闘となる。PCたちはひとつのエンゲージ、そこから5m離れた地点に群魑『天下』P281)3体からなるエンゲージがひとつ、さらに5m離れた位置に黒天狗『蒼穹』P182)黒狼『蒼穹』P183)からなるエンゲージひとつが配置される(*)からなるエンゲージひとつが配置される。

このシーンは炎に包まれているため、戦闘終了時まで(美奈穂と子供は含まない)クリンナップフェイズごとに、[飛行状態]でないキャラクターは自動的に〈炎〉1D6ダメージを受ける。

▼描写

河上彦斎を追う中で、キミは^{しじょうどおり}四条通の燃えさかる民家の中で、小さな子供を守るようにして立つ、不思議な服を着た少女を見た。

少女の周囲には、炎のごとき妖異“紅蓮”と、羅刹と化した天狗たちが浮かんでいる。こいつらが、街に火を放った妖異に違いない。捨て置くわけにもいかないだろう。

▼セリフ: 美奈穂

「この子は……殺させません!」

(PC②に)「助けに来てくれたんですか!? ありがとうございます!」

(PC①に)「PC①くん! 待ってた……!」

▼セリフ: 妖異たち

「ミツケタヨ、ミツケタヨ」

「河上殿の探しておられた“器”だ」

「デモ、エイケツガキタヨ」

「なあに、こんな連中は我ら黒天狗とお主ら紅蓮の敵ではない。やるぞ!」

◆結末

戦闘が終了したら、シーンを終了する。

●シーン8: 策動するものたち

マスターシーン

登場難易度: 登場不可

◆解説

シーン7で倒された妖異たちを経由して、乾美奈穂を見つけたことを河上が知るシーン。

▼描写

京都は大混乱になっている。東寺の^{ごじゅうのとう}五重塔の頂上で、その炎を満ちげに見つめるひとりの男がいた。河上彦斎である。

彦斎の背後に、影のようにひとりの、ひどく醜い男が立った。

「^{どくろまる}觸臑丸、首尾は」

▼セリフ: 觸臑丸と彦斎の会話

「四条通りに火をつけに出向いた黒天狗から^{ねんば}念波で知らせがありやした。“器”の娘を見つけたそうです」

「ほう……存外早かったでござるな。さすがは黒姫殿の仕込みということか」

「へ……。ですが、黒天狗どもは居合わせた英傑に倒されちまったそうです。彦斎様がおっしゃってたPC②と……それから、未来から来

(*) 配置される

PC人数が3人以下の場合、群魑のエンゲージは配置しないこと。

たつて珍妙なガキに」

「ふむ、ここで戦力を無益にすり減らすこともござるまい。拙者が出向くとしよう」

◆結末

ふたつの影は、五重塔より消える。シーン終了となる。

●シーン9：四条河原にて

シーンプレイヤー：PC③

登場難易度：全員登場

◆解説

PCたちが美奈穂から事情を聞くシーン。合流と情報交換を想定したシーンである。

▼描写

火災を逃れた人々が集まる四条河原。どうやら、必死の努力の甲斐あって火事は収まりつつあるようだが、人々は不安そうに夜空の星々を見つめている。

そんな中、美奈穂は気丈に傷ついた人たちの手当を行なっている。彼女が手を触れるたびに、人々の火傷が癒えていくように見える。キミは彼女から事情を聞くことにした。

▼セリフ：美奈穂

「この力……ですか？ わかりません。この時代にやってきたときに、自然にできるようになったんです」

「たぶん、PC①くんの力と同じようなものだと思います」

（“器”という言葉について聞かれた）「いいえ……心当たりはありません」

◆結末

PCたちと美奈穂の会話が一区切りすると、突然周囲に強烈な妖気が漂う。シーン終了となる。

●シーン10：四条河原にて

シーンプレイヤー：PC⑤（いなければPC②）

◆解説

河上彦斎が現われ、河原に集まった人々を人質に美奈穂の引き渡しを迫るシーン。

▼描写

その男は、河原の人混みの中でも一目でわかるほどの強烈な戦場の気配をまとっていた。河上彦斎、刻を超えたキミの宿敵。「ようやくお会いできたでござるな、伏姫」
「伏姫……？ あなた、何を？」

戸惑う美奈穂に、河上は動じた様子もない。「あなた様こそ、伏姫の転生。この世を変え

る女神にござる」

そういって、河上は薄く笑った。

▼セリフ：河上彦斎

「単刀直入に申し上げるでござる。乾美奈穂嬢をこちらに引き渡してもらいたい」

「すでに河原には、拙者の手の者が潜伏している。京の各所にも。その実力は、PC②殿ならおわかりでござろう」

「彼らは拙者の合図で一斉に蜂起し、周囲の者どもをことごとく殺し尽くす。もちろん、我ら妖異にとってそれは望むところ……しかし、貴殿らにとってはどうでござろう」

「ご決断を……美奈穂嬢。いえ、伏姫様」

▼セリフ：美奈穂

「……行きます」

「あなたたちに、そんな人殺しをさせるわけにはいきません」

（PC①に）「大丈夫……PC①が助けてくれるって、私、信じているから」

（PC⑤に）「お願いします。PC①を、街の人たちを助けてください」

◆結末

彦斎が退場するとシーン終了となる。

●シーン11：情報収集シーン

シーンプレイヤー：PC④（いなければPC③）

◆解説

情報収集シーン。以下の情報を収集する。判定値は基本的に【理知】で判定する。カッコ内が情報を得るための難易度である。情報収集判定はPCひとりにつき2回程度を目安にしている。

▼河上彦斎（難易度：10）

未来から来たと自称する羅刹。居合いの達人で、笑顔のまま人を殺すことができる。二条城から伏姫の数珠を強奪した。

▼伏姫の数珠（難易度：12）

かつて村雨丸を見いだした英傑である里見八犬士の生みの親とも言うべき、伏姫が持っていた水晶の数珠。伏姫の転生者の力を引き出す力がある。

▼伏姫（難易度：12）

里見義実の娘。かつて霊犬、八房の気を受けて里見八犬士を身ごもった。死後、神へと転生したとされている。その魂には、村雨丸と引き合う力がある。

▼妖異の動向（難易度：12）

京都各地に攻撃をかけた妖異たちは、断続的に攻撃を継続している。また、美奈穂がさら

われた直後、比叡山が光の壁に包まれ、入ることができなくなってしまった。突入した所司代^{しよしだい}の兵も帰還していない。

▼黒姫（難易度：10）

黒天狗、すなわち羅刹となった天狗のひとり。天狗同士の子である魔縁^{まえん}で、それゆえに世を恨み、羅刹となった。河上彦斎と行動を共にし、PC③を憎んでいる。

●シーン 12：玉梓の導き

シーンプレイヤー：PC③

登場難易度：8

◆解説

「伏姫^{ふしひめ}」[妖異の動向]を調べると発生するシーン。玉梓（『天下』P52）がPCたちに比叡山の結界について語るシーン。

▼描写

封鎖された比叡山と、消えた美奈穂。ふたつを調査するため、夜の京を走り回るキミの前に、犬の尾と耳を持つ少女が現われた。

▼セリフ：玉梓

「そこの方。乾美奈穂……いいえ、我が妻、伏姫の転生を探しておいでですね？」

「彼女は羅刹、河上彦斎によって比叡山へと連れ去られました。かの地は、京都最大の鬼門^{きもん}。京の要石たる地です」

「伏姫の数珠と、彼女の魂があれば、村雨丸そのものを妖異の力によって破壊することすら可能。おそらく、河上の狙いはそれでしよう」

「そして、比叡山を守る結界は他ならぬ伏姫の力。いかなる妖異を制する呪法でも、聖なる力を破ることはできません。ただひとつ、無限の力、黄龍の力を除いては」

「約束してください。美奈穂を救い、この世界を守ると」

◆結末

PCたちが玉梓との会話を終えたらシーン終了となる。

●シーン 13：京の危機

シーンプレイヤー：PC④（いなければ発生させなくてよい）

登場難易度：10

◆解説

PC④に天雷が接触してくるシーン。PCたちが比叡山に向かうと発生する。

天雷たち八葉衆は、御所を始めとする京を守護するため身動きがとれない。

天雷がせめてもの援助としてPC④に渡してくるのは、若水×5（『天下』P207）である。これはセッション終了時に失われる。

▼描写

比叡山を目指して走るキミたちの前に、天雷が現われた。相当傷ついているが、足取りはしっかりしている。

▼セリフ：天雷

「無事だったか、PC④」

「……比叡山を守る八葉衆とは連絡が取れぬ。

おそらくは全滅か、そうでなくても力を封じられたと見るべきであろう」

「本来なら私もお前たちとともに比叡奪回に向かうべきだが、あいにくと、強力な妖異たちが御所を狙う動きを見せている。そちらに対処せねば、国が減ぶ」

「せめてものたむけだ。これを持って行け」（若水を渡す）

◆結末

死ぬなよ、とつぶやき、天雷は御所の方角へと走り去っていく。シーン終了となる。

●シーン 14：伏姫の結界

シーンプレイヤー：PC①

◆解説

比叡山の結界へと突入するシーン。PC①が《黄龍顕現》を使用することで、結界を開くことができる。

▼描写

光輝く壁が、目の前に現われた。どこからか、美奈穂の声がする。感じる。彼女の暖かさを。まだ彼女は生きている！

▼セリフ：美奈穂

「来てくれたのね、PC①」

「私はこの奥、あの場所にいるわ」

「……本当は、あなたに危ないことをしてほしい」

「でも、あなたは自分が傷つくより、他人が傷つくのが嫌いな人。私は、そんなあなたが好き」
「お願い、河上さんを止めて。あの人は、この世のすべてを憎んでいる。止めなければ、とりかえしのつかないことになるわ」

◆結末

PC①が《黄龍顕現》を発動させると、光が打ち消し合い、門が出現する。門に突入することで、クライマックスフェイズとなる。PCたちに【宿星：河上彦斎を倒す】を渡すこと。

クライマックスフェイズ

●シーン 15: 決戦、比叡山

シーンプレイヤー: PC②

◆解説

河上彦斎と決戦を行なうシーン。PCから5mの距離に河上彦斎と黒姫、黒天狗『蒼穹』P182) × 2、さらにそこから5m離れた地点に髑髏丸が出現する。

▼描写

まるでキミたちを待ち受けていたかのように、礫にした美奈穂を前に、待ち構える河上彦斎と黒天狗たち、黒姫、そしておぞましい姿の忍者。戦いは避けられない。

▼セリフ: 河上彦斎

「やはり儀式完成よりお主らが来るほうが早かったでござるな。宿星とやらの導き、侮れぬ」
「だが、これで終わりでござる。我が殺人剣、冥途の土産にその目に焼き付けよ」
(PC①に)「そなたのように、毛唐にかぶれたものどもが我が物顔で日本を練り歩くのが未来だというなら、拙者は未来など求めぬ」

(PC②に)「決着、ここでつけてくれるぞ」

(PC④に)「仏に何が救えると？ 拙者は救いなど求めてはおらぬがな」

(PC⑥に)「ふふ、再会を喜び合う必要はござるまい。その首、今度こそいただきます」

(倒された)「……まだ死ぬぬ……維新を……
攘夷^{しょうい}を成し遂げるまでは……ッ……!」

▼セリフ: 黒姫

「この世は魔界に落ちる。邪魔はさせないよ!」

(PC③に)「あたしの居場所は、妖異の世界にしかないんだよ!」

▼セリフ: 髑髏丸

「我が名は髑髏丸。シノビがその名を明かすとき、すなわちお主らが死ぬ時ぞ!」

▼セリフ: 美奈穂

「頑張て……負けないで!」

◆結末

戦闘が終わると、河上の手にしていた数珠が輝き、美奈穂の力が解放され、比叡山は浄化される。シーン終了となる。



エネミーデータ

■河上彦斎

◆データ

種別:妖異 レベル:10 サイズ:1
 体:15/+5 反:18/+6 知:12/+4
 理:12/+4 意:12/+4 幸:9/+3
 命:10 回:7 魔:5 抗:6
 行:12 HP:133 MP:34
 攻:〈斬〉+16/物理

対:単 射:至近

防:斬2/刺0/殴1

《外道属性》

《仕掛け太刀》《大斬り》《抜刀術》

《抜刀術の極意》《無拍子》

◆攻撃

・《抜刀術》

タイミング:オートアクション

代償:3MP

解説:攻撃の直前に使用。刀を準備し、その攻撃ないし《無拍子》によるリアクションの達成値を+2する。

攻撃の直後に再び刀を鞘に収める。

・《居合い》

タイミング:マイナーアクション

代償:2MP

解説:そのメインプロセスで行なう白兵攻撃に対する防衛判定のファンブル値に+4(上限8)。対象がファンブルした場合、ダメージ+2D。

・《大斬り》

タイミング:メジャーアクション

代償:2MP

解説:ダメージロール+4Dして白兵攻撃。

・《無拍子》

タイミング:リアクション

代償:4MP

解説:同一エンゲージからの物理攻撃に対して、【命中値】で防衛判定を行なう。対決に勝利した場合、攻撃を回避すると同時に〈斬〉+16(《抜刀術》使用時さらに+2D)ダメージを相手に与える。

◆奥義

☐一刀両断 ☐光芒一闪 ☐剣禅一如
☐剣禅一如 ☐一蓮托生 ☐疾風怒濤
☐疾風怒濤 ☒神出鬼没 ☒神出鬼没

■設定

幕末の時代において最強と呼ばれた肥後(熊本)出身の人斬り。伯耆流居合の達人で、抜く手も見せず相手を両断してしまう。

■戦闘プラン

なるべく多くのPCにエンゲージし、攻撃に対しては積極的に《無拍子》によるカウンターを行なう。奥義は主に自身の攻撃に対し使用せよ。

■髑髏丸

◆データ

種別:妖異 レベル:7 サイズ:1
 体:15/+5 反:18/+6 知:9/+3
 理:12/+4 意:12/+4 幸:15/+5
 命:9 回:9 魔:6 抗:6
 行:9 HP:52 MP:21

攻:〈刺〉+14/物理

対:単 射:10m

防:斬4/刺1/殴3

《範囲攻撃》《猿飛の術》《手裏剣打ち》

《飛影の術》

◆攻撃

・《猿飛の術》

タイミング:ムーブアクション

代償:2MP

解説:〔飛行状態〕で移動を行なう。その際封鎖・制圧を無視する。

・《範囲攻撃》

タイミング:マイナーアクション

代償:なし

解説:直後の攻撃の対象を範囲(選択)に変更する。

・《手裏剣打ち》

タイミング:メジャーアクション

代償:1MP

解説:無数の手裏剣を打ち、敵対者複数を狙わずまにする妖異忍術。ダメージに+3Dして射撃攻撃を行なう。

■設定

河上彦斎配下の忍者。身体を毒に馴らす忍法の鍛錬のため醜い姿になってしまい、美しい世界を妖異の力で生み出すことに憧れている。

■戦闘プラン

可能な限り距離を取り、なるべく多くのPCを《範囲攻撃》+《手裏剣打ち》で攻撃すること。

■黒姫

◆データ

種別:妖異 レベル:5 サイズ:1
 体:12/+4 反:21/+7 知:12/+4
 理:12/+4 意:18/+6 幸:6/+2
 命:5 回:7 魔:7 抗:7
 行:14 HP:48 MP:28

攻:〈斬〉+22/物理

対:単 射:至近

防:斬5/刺2/殴5/雷20/闇15

《悟入:魔縁》《天狗変》《天狗身:裂爪》

《天狗身:烈風》《風刃乱舞》

・〔飛行状態〕

・データは《天狗変》使用後のもの。

◆攻撃

・《風刃乱舞》

タイミング:メジャーアクション

攻:〈斬〉3D6+14/儀式

対:場面(選択) 射:視界

代償:8MP

解説:対象に儀式攻撃を行なう。対象が〔飛行状態〕の場合、さらにダメージに+1D6し、転倒とスタンを与える。

◆奥義

☐金城鉄壁 ☐不惜身命 ☐不惜身命

■設定

魔縁であるが故に人と天狗とを等しく憎む黒天狗。河上彦斎の愛人でもあり、彼のためなら命を捨てる覚悟が出来ている。

■戦闘プラン

最初のイニシアチブプロセスに《天狗変》を使用する。自身の手番では距離を取り、《風刃乱舞》で攻撃を繰り返す。河上彦斎への致命的なダメージに対しては《不惜身命》を使い対象を自分に変更すること。

■PC人数が少ない場合

PCが4名の場合、河上彦斎の【HP】を-30し、奥義から《剣禅一如》と《疾風怒濤》それぞれひとつを削除する。

PCが3名の場合、河上彦斎の【HP】をさらに-30し、さらに《光芒一闪》と《一蓮托生》もうひとつを削除し、髑髏丸と黒姫の【HP】を-20する。

PCが2名の場合、河上彦斎の【HP】をさらに-20し、《疾風怒濤》ひとつと黒姫の《金城鉄壁》を削除すること。

エンディングフェイズ

●シーン 16: 夜明け

シーンプレイヤー: PC①

◆解説

PC①のエンディング。美奈穂がPC①に助け
てくれたお礼を言うシーンとなる。

▼描写

夜が明ける。

太陽の光に包まれて、京都の街はまた輝
き始める。十字架から降ろされた美奈穂は
だいぶぐったりした様子だが、それでも水晶
の数珠を手に、にっこりとほほえんだ。

▼セリフ: 美奈穂

「ありがとう、PC①。それにみなさん」
「本当は、ちょっと、ううん、とっても怖かった」
「でも、きっとあなたが助けてくれるって信じて
いたから。この街も、私のことも」
「伏姫の力とか、関係ない。私は、あなたを信
じてる。いつも一生懸命な、PC①のことを信
じてる。それだけ、だから」

◆結末

美奈穂はちょっと頬を赤らめて、PC①の
手を握ると、「帰ろう」と言って笑う。シーン
終了となる。

●シーン 17: 寛永寺にて

シーンプレイヤー: PC②

◆解説

PC②のエンディング。上野に戻ったPC②が
天海と会話するシーンとなる。

▼描写

上野に戻ったキミは、今度のことを天海に
報告し、数珠を返還した。

▼セリフ: 天海

「かたじけない。さすがはPC②殿」
「この数珠が奪われずに済んだことはもっけの
幸い。いや、PC①殿という英傑の力を呼び
覚ましたことで、我らの勝利は近づいた」
「これからよろしく頼みますぞ」

◆結末

天海との会話を終えたらシーン終了とな
る。

●シーン 18: 天狗の宿命

シーンプレイヤー: PC③

◆解説

PC③のエンディング。PC③が鬼一法眼
(P21) と会話するシーンとなる。

▼描写

くらまやま
鞍馬山。

キミは戦いに疲れた羽根を、この地で休
めている。気がつくと、鞍馬天狗の頭領たる
鬼一法眼きいちほうがんがそばにあらわれて、あなたに茶
を勧めてくれた。

▼セリフ: 鬼一法眼

「はい、我が家に秘伝の薬茶だよ。苦いけど、
とってもよく効くんぞ」
「……黒姫のこと、ありがとう」
「あたしたち天狗は、妖異を討つために選ばれ
た種族。それゆえに、人と交わらねば生きて
いけぬ。人なくしては、天狗は生きられぬ……
そう、お父さんが言ってた」
「ねえ、PC③。PC③は人間になりたい、って
思ったことある?」

◆結末

PC③が鬼一法眼の問いに答えたら、シー
ン終了となる。

●シーン 19: 八葉衆たち

シーンプレイヤー: PC④

◆解説

PC④のエンディング。PC④が天雷と会話す
るシーンとなる。

▼描写

キミと天雷はお互いに傷ついた体を休め
ながら、さまざまな人々が復興に向けて忙し
く働いている都を眺めている。

▼セリフ: 天雷

「ひとまず、終わったな」
「なあ、PC④。この戦いに終わりはあるのだ
ろうか? 妖異が我ら人間の煩惱から来ると
したら、奴らは不滅なのだろうか?」
「……いや、愚問だな。いつか必ず、人々がもっ
と賢明になる時が来る。そうすれば、妖異は
おのずといなくなるはずだ」
「その日まで、戦おう。私はお前となら、戦っ
ていける気がするんだ」

◆結末

PC④が天雷との会話を終えたら、シーン終了となる。

●シーン 20: 新選組!

シーンプレイヤー: PC⑤

◆解説

PC⑤のエンディング。PC⑤が新選組のバトロンである上様と会話するシーン。

▼描写

壬生寺の誰も知らぬ密室。そこでキミは、“上様”、新選組の真のバトロンと対話していた。

▼セリフ: 上様

「ご苦労だった、PC⑤」

「河上彦斎は、国を憂^{うれ}いた志士であった。妖異に墜ちねば、わかりあえたかもしれないに」「いや、これは僕の弱気だな。強くならなければいけないね。君たち新選組や、あの若者たちのように」

「明治を到来させぬこと。あの暗黒の未来を訪れさせぬため、キミたち新選組の力、この家茂にこれからも預けてくれ」

◆結末

上様との会話を終えたら、シーン終了。

●シーン 21: 京洛夢幻

シーンプレイヤー: PC①

◆解説

PC①が夢の中で上様と対話するシーン。

▼描写

そしてまた、キミは夢を見ている。あの“上様”と語り合う夢を。

▼セリフ: 上様

「ありがとう、PC①。キミと美奈穂くんの力で、この世界は守られた」

「……私の知る未来と、キミの知る未来。それが同じなのかどうかはわからない。もしかしたら私の望む未来は、キミの世界を否定するものであるのかもしれない」

「だが、そうであっても、キミたち英傑は村雨丸を見つけ、世界をまっさきに返すべきなのだ。それが、この夢の終わりを意味しても」

「そして、未来に戻ったら私たちに教えてくれ。私たちが生きた時代の意味とは一体なんだったのかを」

◆結末

PC①が上様との会話を終えたら、シーン終了となる。

シナリオ「京洛夢幻」 プレイレポート

●概要

本シナリオは未来から来た伏姫の転生、乾美奈穂と、その力を逆用することによって時空破断を完全なものにし、日本を魔界に変えようとする刺客、河上彦斎との戦いを扱ったシナリオである。

●PC①

言うまでもなく、現代からこの化政時代にやってきたPC①と他のキャラクターのカルチャーギャップは本シナリオの焦点である。

多くのテストプレイで、PC①はみずからの野望のために簡単に人を殺す河上ら妖異に怒り、美奈穂を救い出すために戦う熱血漢として描かれた。他のキャラクターはそれぞれの立場からPC①にアクセスすることによって自身のキャラクターを演出し、その物語を補強するというプロセスを楽しんだ。

全体的にPC①を「天下繚乱」、ひいては時代劇に不慣れたプレイヤーに振るGMが多く、またそれは功を奏している。これは、PC①の視点と、このゲームに不慣れたプレ

イヤーの視点が一致させやすいためである。

●乾美奈穂

乾美奈穂は本シナリオのヒロインである。彼女は運命に翻弄され、前世によって数奇な苦難を帯びてはいるが、この化政時代に溶け込み、そこに生きる人々に共感することができる強い少女である。

あるテストプレイでは、PC①が積極的にGMに要請し、美奈穂との回想シーンを挿入することで、現代の(修学旅行で訪れた)京都の街と、江戸時代の京都のギャップを強調する演出を行なった。プレイヤーに京都に詳しい者がいたため、大変盛り上がった。

また、あるテストプレイでは、エンディングで《黄龍顕現》を使用したPC①が、美奈穂だけでも現代に戻せないか、と提案した。GMは熟慮の末、これを認めた。(こうした処理は卓ごとに違うものであり、あなたが認めなければならないわけでも、また却下しなければならないわけでもない)

●河上彦斎

河上彦斎は幕末において佐久間象山(さくま・しょうざん)を暗殺した人物である(本作では暗殺する前にタイムスリップしている)。また、漫画『るろうに剣心』の主人公、緋村剣心のモデルとしても知られている人気のある歴史上の人物である。従って、彦斎の演出はなるべく単なる悪人ではなく、敬意を持って取り扱ったほうがよい。

あるテストプレイでは、PC⑤のプレイヤーがみずから佐久間象山の息子(実在する人物である)とし、日本をどのようにすべきかについて彦斎と刃で語り合う、というプレイを行なった。GMは佐久間象山の息子が新選組隊士である、という史実を知らなかったため当初は混乱したが、彦斎のロールプレイの一部をPC⑤に任せ、という方法で対処し、結果的に大いに盛り上がった。

また、別のプレイでは少年という設定のPC②が彦斎の強さに憧れ、その強さを越えることで大人になる、というモチベーションでプレイが行なわれた。